

多文化共修科目の発展

—「多言語社会とコミュニケーション」の試み—

岡 智之（東京学芸大学）

1. はじめに

全国で、多文化共修の取り組みが広がっている。筆者が担当する2019年秋学期、多文化共修科目B「多言語社会とコミュニケーション」では、多言語・複言語主義の下で、琉球語、アイヌ語、日本手話など少数言語のゲスト教師を招いたり、留学生の母語や日本各地の方言を学びあう活動、朝鮮学校・ブラジル人学校の訪問交流など、多言語を学び、多言語社会の問題をテーマとして発表し討論する活動を行った。本活動を振り返り、言語を焦点とした多文化共修授業の意義と可能性について明らかにする。

2. 多言語社会とコミュニケーションの概要

2.1 講義トピック…多言語主義、複言語主義と言語教育、在日コリアンの言語使用の実態とその背景、移民の言語使用と母語教育、琉球諸語と危機言語（ゲスト）、アイヌ語とアイヌ文化（ゲスト）、ろう文化と手話（ゲスト）、振り返りと全体まとめ＝ワールドカフェ

2.2 課外活動… 西東京朝鮮第一初中級学校公開授業参観、群馬県太田市ブラジル人学校ピタゴラス、大泉町日伯学園訪問、第4回東京学芸大学ヒューマンライブラリー

2.3 受講者… 学部正規学生（15名、うち在日韓国人学生1名、中国人留学生2名）

非正規留学生（12名、うち中国8、韓国1、タイ1、台湾1、スウェーデン1）

2.4 留学生の言語、日本の方言を学ぶ

・留学生の言語…スウェーデン語、タイ語、韓国語、台湾語、中国湖南省方言、上海方言、洛陽方言、・日本の方言…関西方言、津軽方言、秋田方言、高知方言、宮崎方言、奄美大島方言、福島方言、関東各地の方言（群馬、埼玉、東京）、在日コリアンの言語使用

2.5 最終発表テーマ

○ 外国にルーツを持つ子どもたちへの日本語教育・母語教育について

…年少者日本語教育の現状／公立学校における外国人児童への対応／日本語教育と母語教育のあり方について—朝鮮学校とブラジル人学校と比較して／在日外国人への学校における言語学習に際する問題点 ○ 危機言語について…～危機言語～言語と歴史的背景／台湾言語の現況と対策／日本における危機言語復興の一例／日本語が消える？／中国少数民族危険言語マリマサ語／世界の危機言語・なくなりそうな言葉 ○ ろう者の言語使用と生活… 手話・ろう者への関心度（アンケート）／タイの手話／手話入門（中国）／日本の手話／手話を使う人から見た社会～日常生活編～／就労と社会福祉サービスにおけるろう者の生活 ○ 第二言語習得論から見た学校教育における言語教育の歴史と現状… 母語と第二言語学習／スウェーデンの言語教育の実態／日本の外国語教育の変遷／中国外国語教育の政策／中国少数民族の英語教育／言語と文化、そして教育

3. 受講者アンケートより見る学生の学び

I. 留学生（日本人学生）と共に学んで、よかった点…日本人である私たちとの観点の違いや、言語についての解釈が様々であることを学ぶことができました。多言語文化を学ぶ上でとても参考になった。／日本人の方言や日本人の言語に対する考えが前より分かるようになりました。・改善すべき点：固定されたメンバーとしか交流が得られなかった。

II. 「多言語社会」への理解とコミュニケーションができたか。

多言語社会の多様性、多言語主義、複言語主義、英語と母語、難民問題などの理解は深

くなりました／クラスに中国人、日本人、韓国人、タイ人やスウェーデン人がいますから、普通できないコミュニケーションができたと思います

III. 授業の各トピックについて

1. 多言語主義、複言語主義と言語教育…多言語主義と複言語主義の定義をはっきりと分かりました。多言語社会における言語教育は英語にだけ集中したらよくないと思います。母語も大事にした方がいいです。他の言語への支援も必要だと思います。

2. 移民の言語使用と母語教育…実際に朝鮮学校を訪ねて、学校の雰囲気を感じしたり、授業を見学したりしたら、在日コリアンの状況と問題への理解が深くなりました。

3. 琉球諸語と危機言語…琉球諸語と危機言語についての知識を身につけられた。危機言語はなぜ守らなければいけないのか考えさせられた

4. アイヌ語とアイヌ文化…日本にある言語であり、日本語ではない「アイヌ語」の歴史を明らかにした／アイヌ語が危機に瀕していることは知らなかった。

5. ろう文化と手話…ろう者の生活における問題、ろう者の考えなどが分かりました。簡単な手話も学んで、とても面白かったです。／一生に覚えるほど感動した。

IV. 授業の方法について…よかった点：留学生とのグループワークや留学生との交流／先生と客員ティーチャーの説明も分かりやすいと思います。／話し合いが多かった点、改善した方がよい点：グループワークはもっと参加を促してもよいと思いました／時間切れが少し多かった。

V. 課外活動について…よかった点：多くの選択肢（活動）を紹介していただいたため、この授業を受けていなければ自分からは参加しなかった活動に参加し、様々な経験ができた、改善した方がよい点：日程の関係で行けなかった点

VI. 母語・方言紹介の個人発表について…どの国にも方言があり、それぞれの地域に独自性と価値があることを深く知ることができた。調べることによって自分の方言を見直す良いきっかけになった点。

VII. 最終発表について…よかった点：自分の好きなテーマに取り組むことが出来た。／チームワークで、メンバーと親しくなりました。／系統だったテーマをもとに多くの視点から言語について知るよい機会でした。／時間配分の点

VIII. この授業を受けて、自分の考えに変化があったか。また、今後どのように生かしたいか英語教育について考え直しました。以前は英語を勉強しなければならないと思っていたんですけど、今は自分が好きな言語を勉強したらいいと思います。言語教育政策も他の言語をもっと支援すべきだと思います。とても印象深いのはろう文化です。ろう者の考えを理解し、これからどうやってろう者と交流するのかが分かりました。手話も一つの言語だということを知りました。／あらゆる言語を尊重したい。様々な言語に対する知識を増やしより多くの人とコミュニケーションを取りたい。

IX. 全体としてこの授業について…フィールドワークでの学びが大変勉強になりました。実際に目で見て、人と対話してこそ得られるものがあることを実感できたので良かったです。授業内外を通して、さまざまな国の文化や言語についても学ぶことができ、とても充実した授業でした。

4. おわりに一授業の成果と今後の課題 …日本における多言語状況、自分の中にある複言語などについて、多彩な課外活動やゲストレクチャーまた、受講者動詞の発表、討論によって、アクティブに学べたということが一番の成果であろう。

・時間配分の問題はまず一番の反省点。限られたメンバーとしか交流できなかったという声があったので、もう少し工夫が必要かと思う。

参考文献：岡 智之 (2019)「多文化共修科目4年目の振り返り～文化理解の変容に着目して～」『東京学芸大学紀要 総合教育科学系Ⅱ』第70集.